マツユキソウは待雪、松雪？

札幌市医師会
札幌清田病院
後藤　義朗（ごとう　よしろう）

「題名のない音楽会」（北海道Ｒ６／12／８放送）のゲストは、2021年ショパン国際ピアノコンクールで１位を取ったピアニストのブルース・リウだ。披露曲はチャイコフスキー「四季」－12の性格的描写の中から、６月「舟歌」と４月「松雪草」の副題が付く。前者の「舟歌」は聞き覚えがある。船遊びするような心地よく軽快な曲だ。ショパンやフォーレにも舟歌があるが、舟歌と聞くと筆者は八代亜紀の『舟唄』をしみじみと思い出してしまう。さて、後者の松雪草とは、どんな花なのであろう。読みは同じ「待雪草」なら、スノードロップの和名として記憶していたのだが。題名をYouTubeで確認すると、確かにピアノ曲は「松雪草」と掲げている。でも、辞書で調べるとgoo辞書は待雪草（「待」と略）のみで、松雪草（「松」と略）はない。Weblioは「待」も「松」もあり、また、季語辞典[1)]には春の季語で「松」として記載されている。蔵書の植物専用の雑誌では「待」[3)]で、一方歳時記では「松」を使うので[4)]、芸術関係で多用されているのかもしれない。

Wikipediaのスノードロップの項を見ると「待」を充てている。ヒガンバナ科で、学名は Galanthus nivalis。Galaはギリシャ語でミルク、anthusは花で、nivalisは雪を意味する。「松」か「待」かの定義は、学名からは推察できない。またスノードロップのドロップは垂れて咲く、あるいは雫のようなという表現も併せている。高さ15～25cmで、釣り鐘状に白い花を下向きに付ける早春の花だ。外は大きな三弁、内側に三弁ある。明治時代の初めに日本に渡来して和名は、雪の中の寒さにも負けず、最後の雪を「待って」春一番に咲く花を表現した[2)]。つまり、植物学では、「待」が正字なのだ。

一方、スノードロップは、聖燭祭（２月２日）と関係が深い。カトリック教会の祝日で、イエスキリスト生誕40日でマリアとヨゼフがエルサレムの神殿につれていった日なのだが、この花を集め家に持ち帰ると家が清められるという。また、禁断の実を食べたアダムとイブが、楽園を追いやられ雪の中を歩いていると哀れに思った天使が雪に息を吹きかけた。その雪が地に落ちて咲いた花で、もうすぐ春がくるからと伝えたとも言われる。（別名春告草といわれる所以でもある）

ロシアの詩人マルシャークが『森は生きている』[5)]の中でこの花をテーマにした。主人公の少女が大晦日に継母からスノードロップを探すようにと吹雪の森に追いやられる。訳者の湯浅芳子は子供の読者のためにマツユキソウとカタカナで記した。初版は1953年で約70年前だが、「待」と「松」には結論が出ていない。なお。物語はスロバキアの伝説に基づく、ロシアのシンデレラストリーである。女王が、大晦日に冬に４月に咲くマツユキソウを見たいから、篭一杯の花を摘んできた者に金貨とギンギツネのシューバ（外套）を与えるという御触れを出す。吹雪の森に追いやれた娘は12人の各月の精（原題が『十二月』）が集まっていた場所にたどり着く。話を聞いた「１月の精」は心打たれ、「４月の精」に１時間だけ場所を譲ることを他の精に了解を得た。季節は急に春となってスノードロップが咲き、娘が手にすることができた。

では、「松」の由来は？　松は常（トコ）しえの緑を保ち、冬でも存在する。生命力の強さや長寿であるので、神聖で縁起のよい植物だ。年末の飾る松は、神の依代（ヨリシロ）となるので、年神様をお迎えするお正月飾りにも用いられるが、門松の松は神を「待つ」、あるいは、祀（マツ）るという意味も含まれる[6)]。従って、マツユキソウの「松」には、福以外に年神様の降臨を「待つ」意味も重ねた可能性がある。縁起を大切にする音楽や俳句などの芸術の分野ではそこに重きを置いたかもしれない。

スノードロップは薬剤の観点からも注目される。その根に含まれるアルカロイドの一部はガランタミンとして精製され（学名ガランサス由来か？）。現在アルツハイマー型認知症（AD）の進行抑制に用いられる（Wikipedia）。人生の「秋」とも言われる初老期から発生するから他人事ではない。認知症への効果は神様の救いの手でもあろう。ADの方が希望を持ち新たな春を「待」つことができるのも、さらに季語のように「松」の永続性を願うことも、両者ともADの方には「福」に通じる。

今年はさっぽろ雪まつり後の大雪に見舞われた。12時間で積雪120センチを越えた帯広では雪害が大きかった。これが最終の雪で胸をなでおろした。筆者も人生の秋を迎えたが、誕生月でもある４月、その精がもたらす待雪草をこれからも待ち続けたい。

＜参考＞

１）松雪草（まつゆきそう／まつゆきさう）初春－季語と歳時記
２）スノードロップの花言葉｜名前の由来｜花言葉・誕生花｜HanaPrime（ハナプライム）
３）Fleur　週刊花百科　No. 97 講談社　Ｈ９／１月
４）草木花の歳時記　四季花ごよみ　講談社　1994
５）森は生きている　岩波少年文庫072　岩波書店　2000年
６）趣味どきっ！　開運！神秘のちから 縁起物“門松”（NHK　Ｅテレ　Ｒ６／12月）